

豊橋技術科学大学の新型コロナウイルス感染拡大防止のための活動基準(2020.06.24改定)

2020年6月24日現在

レベル	授業	研究室等における学生との教育研究活動 (系, 研究所, センター)	教員個人の研究活動 研究所, センターの活動 (左記除く)	事務職員の業務	課外活動	学内会議	出張等	施設利用・構内入構
0 (終息)	●通常どおり	●通常どおり	●通常どおり	●通常どおり	●通常どおり	●通常どおり	●通常どおり	●通常どおり
0.5 (収束)	●ほぼ通常どおり <感染が再度広まらないよう新しい生活様式等の実践>	●ほぼ通常どおり <感染が再度広まらないよう新しい生活様式等の実践>	●ほぼ通常どおり <感染が再度広まらないよう留意新しい生活様式等の実践>	●ほぼ通常どおり <感染が再度広まらないよう新しい生活様式等の実践>	●ほぼ通常どおり <感染が再度広まらないよう新しい生活様式等の実践>	●ほぼ通常どおり ・オンラインの活用 <感染が再度広まらないよう新しい生活様式等の実践>	●ほぼ通常どおり <感染が再度広まらないよう新しい生活様式等の実践>	●ほぼ通常どおり <感染が再度広まらないよう新しい生活様式等の実践>
1 (警戒) 6/24~	●感染拡大防止措置の上 ・新しい生活様式等の実践を徹底し、遠隔授業と対面授業を併用して、授業の実施対面授業の実施(実習・演習含む) ・遠隔授業の利用 ・対面授業, 実験実習 →身体的距離の確保 1 m目安 <新しい生活様式等の実践の徹底> (別紙A参照)	●感染拡大防止措置の上 ・新しい生活様式等の実践を徹底し、必要な活動の実施 ・在宅勤務の活用推奨 <新しい生活様式等の実践の徹底> (別紙B, D参照)	●感染拡大防止措置の上 ・新しい生活様式等の実践を徹底し、必要な活動の実施 ・在宅勤務の活用推奨 <新しい生活様式等の実践の徹底> (別紙B, D参照)	●感染拡大防止措置の上 ・新しい生活様式等の実践を徹底し、ほぼ通常のどおり勤務 ・時差出勤の活用推奨 ・在宅勤務の活用推奨 ・別室の活用推奨 <新しい生活様式等の実践の徹底> (別紙B, 研究室・執務室・事務室での活動, D参照)	●感染拡大防止措置の上 ・新しい生活様式等の実践を徹底し、必要な活動の実施 <新しい生活様式等の実践の徹底> ★当面の間、レベル2適用	●感染拡大防止措置の上 ・新しい生活様式等の実践を徹底し、必要な会議の実施 ・オンライン・メール会議の積極的活用 <新しい生活様式等の実践の徹底>	●感染拡大防止措置の上 ・新しい生活様式等の実践を徹底し、流行地域への不要不急の出張・旅行は慎重 <新しい生活様式等の実践の徹底>	●感染拡大防止措置の上 <学生・教職員, 学外者> ・新しい生活様式等の実践を徹底し、施設利用・構内入構 <新しい生活様式等の実践の徹底> (別紙B, D参照)
2 (中度警戒) 6/01~6/23	●感染拡大防止措置の上 ・新しい生活様式等の実践・励行を徹底し、授業の実施 ・遠隔授業の積極的利用 ・対面授業の制限 → (教室収容定員50%) ・演習・実習の制限 → (教室収容定員50%) *対面授業は県外からの移動者の状況に対応して開始(6/15以降の開始) <新しい生活様式等の実践・励行の徹底> (別紙A参照)	●感染拡大防止措置の上 ・在宅勤務を積極的に活用し、オンライン活用による必要な活動の継続 ●ただし、大学内での活動継続が必要な場合は、新しい生活様式等の実践・励行を条件に、実施することができる。 ・研究室所属学部学生については、研究室責任者(教員)の判断とする。 ・なお、教員・研究員, 博士・修士学生は特に制限はなしとする。 ★届出制 <新しい生活様式等の実践・励行の徹底> (別紙B, D参照)	●感染拡大防止措置の上 ・在宅勤務を積極的に活用し、オンライン活用による必要な活動の継続 ●ただし、大学内での活動継続が必要な場合は、新しい生活様式等の実践・励行を条件に、実施することができる。 ★届出制 <新しい生活様式等の実践・励行の徹底> (別紙B, D参照)	●感染拡大防止措置の上 ・一居室での人数を減らすなど新しい生活様式等の実践・励行を徹底し、必要な業務の継続 ・時差出勤の活用 ・在宅勤務の活用 ・別室活用 ★届出制 <新しい生活様式等の実践・励行の徹底> (別紙B, 研究室・執務室・事務室での活動, D参照)	●感染拡大防止措置の上 ・活動前の健康チェック(倦怠感・息苦しさ・発熱がないことの確認)及び新しい生活様式等の実践・励行を徹底し、課外活動の実施 ★許可制 <活動前の健康チェックの徹底> <新しい生活様式等の実践・励行の徹底> (別紙C許可基準参照)	●感染拡大防止措置の上 ・新しい生活様式等の実践・励行を徹底し、必要な会議の実施 ・メール・オンライン会議中心 ・対面会議を実施する場合は、一居室の人数を抑制 <新しい生活様式等の実践・励行の徹底>	●感染拡大防止措置の上 ・新しい生活様式等の実践・励行を徹底し、不要不急の出張・旅行の自粛 ★出張: 許可 ★旅行: 届出 *別に定める期間の流行地域等への出張, 旅行後, 本学に通勤する居住地に戻ってから2週間は自宅からの外出自粛・在宅勤務を求めます。 <新しい生活様式等の実践・励行の徹底>	●一部制限 <教職員> ・新しい生活様式等の実践・励行を徹底し、施設利用・構内入構 *公共交通機関利用も可 <学外者> ・原則, 施設(図書館, 研究所, センター等)利用・構内入構禁止 ・ただし, 大学の機能の維持, 教育研究活動の継続等に必要打合せ, 物品の納入, 工事施工, 取材等は構内入構を認めることができる。 <図書館, 研究所, センター> ・新しい生活様式等の実践・励行を徹底し、施設利用再開 <新しい生活様式等の実践・励行の徹底> (別紙B, D参照)
2.5 (中高度警戒) 5/20~5/31	●遠隔授業のみ ・学生の皆さんは、原則、自宅で遠隔授業を受講 ★授業開始日を5/11まで延期 ★5/11から遠隔授業(オンデマンド)を開始(5/29まではオンデマンドのみ)	●原則, 大学内での活動の中止 ・在宅勤務を積極的に活用し、オンライン活用による必要な活動の継続 ●ただし、大学内での活動継続が必要な場合は、新しい生活様式等の実践・励行を条件に、実施することができる。 ・研究室所属学部学生については、週半分程度として、研究室責任者(教員)の判断とする。 ・なお、教員・研究員, 博士・修士学生は特に制限はなしとする。 ★届出制 <新しい生活様式等の実践・励行の徹底> (別紙B, ガイドラインたたき参照)	●原則, 大学内での活動禁止 ・在宅勤務を積極的に活用し、オンライン活用による必要な活動の継続 ●ただし、大学内での活動継続が必要な場合は、新しい生活様式等の実践・励行を条件に、実施することができる。 ★届出制 <新しい生活様式等の実践・励行の徹底> (別紙B, ガイドラインたたき参照)	●感染拡大防止措置の上 ・一居室での人数を減らすなど、新しい生活様式等の実践・励行を徹底し、必要な業務の継続 ・時差出勤の活用 ・在宅勤務の活用 ・別室活用 ★届出制 <新しい生活様式等の実践・励行の徹底> (別紙B, ガイドライン研究室・執務室・事務室での活動参照)	●活動禁止	●原則, メール・オンラインによる会議の実施 ●ただし、やむを得ない事情がある場合、緊急性を要する場合は、数名程度で新しい生活様式等の実践・励行を徹底し、対面会議も可能とする。 (別紙3参照) ★届出制 <新しい生活様式等の実践・励行の徹底>	●感染拡大防止措置の上 ・海外及び特定警戒都道府県(跨ぐ場合含む)の出張・旅行の禁止 ・上記以外の不要不急の出張・旅行の禁止 ★出張: 許可 ★旅行: 届出 *本学に通勤する居住地に戻ってから2週間は自宅からの外出自粛・在宅勤務を求めます。 <新しい生活様式等の実践・励行の徹底>	●一部制限 <教職員> ・新しい生活様式等の実践・励行を徹底し、施設利用・構内入構 *公共交通機関利用も可 <学生> ・研究室等における教育研究活動, 就職指導等に限り, 入構可 *公共交通機関利用も可 ・学生宿舎に入居者は、不要不急の施設利用は禁止(食堂等, 散歩等は可) <学外者> ・原則, 施設利用・構内入構禁止 ・ただし, 大学の機能の維持, 教育研究活動の継続等に必要物品の納入, 工事施工, 取材等は構内入構を認めることができる。 <新しい生活様式等の実践・励行の徹底> <図書館, 研究所, センター> ・新しい生活様式等の実践・励行の徹底し、施設利用順次再開 (別紙B, D参照)

<p>(別紙A、新型コロナウイルス感染症予防及び拡大防止のための2020年度授業等の実施にかかわる方針について抜粋)</p> <p>1. 遠隔授業の活用 新型コロナウイルス感染症対策としての遠隔授業は、教務委員会および教育戦略本部会議が別に定める「2020年度の授業の実施方法について（新型コロナウイルス感染症の状況の変化等を踏まえ随時見直し）」に基づき実施すること。</p> <p>2. 【基本的な感染症対策、感染防止の考え方及び授業等実施の要件】 学生が通学する形で行われる対面での授業等（以下「授業」という。）を実施する場合においては、3つの条件（①換気の悪い密閉空間、②多くの人が密集、③近距離での会話や発話）が重なることを徹底的に回避する対策が不可欠である。授業の実施については、原則として以下の要件を満たすよう、引き続き万全の感染症対策を講じ、衛生環境の整備に特に留意するとともに、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議において提言された「新しい生活様式」も踏まえ、必要な措置を講じること。</p> <p>(1) 換気の悪い密閉空間にしないための換気の徹底 対策：・換気は、気候上可能な限り常時行う。困難な場合はこまめに（授業中30分に1回以上、数分間程度、窓及び反対側扉の2方向の窓を開ける。）換気する。 ・窓のない教室は、常時入り口を開けておいたり、換気扇を用いるなどして十分に換気に努める。（使用時は、人の密度が高くないように配慮する。） ・エアコン使用時（エアコンは室内の空気を循環しているのみ）においても換気する。 対策実施者：授業担当教員</p> <p>(2) 多くの人が手の届く距離に集まらないための配慮 対策：教室の収容定員に対して受講者の割合が概ね50%程度であること。 一定の間隔を空けて座席を確保できること(概ね1つおき(最低1^{1/2}))の間隔に着席させる) 対策実施者：授業担当教員</p> <p>(3) 近距離での会話や大声での発生をできるだけ控え、会話をする際は、できるだけ真正面を避ける。 対策：飛沫を飛ばさないようマスク(手作りマスクやタオル等を巻くなどでも可)を着用する。 マスクを着用していない場合は、ディスカッション形式の授業は行わないこと。 対策実施者：授業担当教員</p> <p>(4) 手洗いや咳エチケットなどの基本的な感染症対策の徹底 対策：講義室等入室前の手洗いや手指消毒を徹底する。各教室等へのポスターによる感染症対策の周知徹底 対策実施者：事務局</p> <p>(5) その他授業における留意事項、接触感染しないための工夫 対策：授業で使うもの（マイク、筆記具、情報機器等）は共有させないこと。 対策実施者：授業担当教員 対策：授業終了後は教室等に留まらず、自宅での事前・事後学修を行うよう指導すること。 対策実施者：授業担当教員</p> <p>(6) 風邪等の症状がある場合の取扱い 対策：・咳、のどの痛み、くしゃみ、鼻水、鼻づまり、頭痛、発熱、喉のかれ、腹痛、下痢、筋肉痛、倦怠感、味覚・嗅覚異状など、普段通りではない体調の変化(体調の異変)・違和感を感じた場合には、出校させないこと。（※「新型コロナウイルス感染拡大防止のための学生連絡体制図https://www.tut.ac.jp/docs/20200513taikeizu.pdf」により対応する。） ・風邪等の症状により授業を欠席した場合は後日、補講・追試の実施、授業中に課すものに相当するレポート課題等を実施し、欠席扱いとしないなど不利益にならないよう配慮する。 ・必要に応じて授業資料等(説明文章付きPPT・PDFファイル等)を作成し、学習管理システム(Google classroom等)に掲載すること。 対策実施者：授業担当教員、（※教務課、学生課、国際課）</p> <p>(7) 新型コロナウイルスに罹患した(おそれのある)場合 対策：・発熱や咳等、体調の悪い場合には大学へ出校させずに自宅で療養させること。出校後に症状が出た場合には、必ず教務課教務係に電話連絡し、速やかに下校させ自宅で療養させること。その後の経過についても同様に毎日電話連絡させること。いずれの場合も上記(6)の履修上の配慮を行うこと。 ・新型コロナウイルスに罹患した学生、海外から帰国・入国後2週間の自宅待機措置中の学生及び入国できない学生は、入院又は出校禁止(自宅療養)としていることから、当該学生には上記(6)の履修上の配慮を行うこと。 対策実施者：授業担当教員、事務局(教務課、学生課、国際課)</p>	<p>(別紙B)</p> <p>●研究室・執務室・事務室での活動 ○一般的な感染予防策(接触・飛沫感染防止策)の徹底 ・在宅勤務(テレワーク)の推進 ＊スタッフの午前と午後で交替や、曜日毎にローテーションで活動等の実施(出勤者・出勤時間の合計の削減) ・セミ等は当分の間、オンラインで実施 ・座席配置は仕切りのない対面での座席配置は避け、可能な限り対角、横並びにするなど工夫する。 ・身体的距離の確保(できるだけ2m(最低1mは空ける。)) ＊上記の座席配置、身体的距離の確保が1室で確保ができない場合は別室を設けることも一つの対策。 ・外出時、屋内、会話時はマスクの着用 ・入室時の手洗いの実施(手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗うこと。(手指消毒薬の使用も可)) ・共用の物品に触れた後に、顔(目、鼻、口)に触れないよう気をつけ、触れた後は手洗いや手指消毒を行う。 ・こまめな換気の実践(実験等の性質も考慮しつつ、換気設備を適切に運転、2つの窓を同時に開けるなど) ・咳エチケットの実践 ・3密の回避(密集、密接、密会)の徹底 ・毎朝、体温測定、健康のチェック。 ・施設(ドアノブ・エレベータボタン等)の消毒 ・症状(発熱や風邪症状等)のある者の入場制限(検温の積極的実施、体調不良時の出勤回避、個人情報の取扱に十分注意しながら入場者等の名簿を適正に管理)等 ・押印や署名に代えてオンラインでの手続きの活用 ・外部業者等との接触を減らすため、納品や検収は物品検収室で主に対応(物品検収室は透明ビニールシート等で遮蔽し対応) ・窓口等では透明ビニールシート等で遮蔽し対応 ・ネットワーク環境の最大限活用(ネットワーク環境を保有していない人の開放等) ・スタッフが他者との接触を極力避けられるエリアの設置など、可能な限り研究活動に専念できる環境の整備 ・オンラインの活用に当たっては、情報セキュリティ対策に留意。 ・職場への出勤は、在宅勤務、時差出勤、自動車・自転車、徒歩等による接触機会の低減(県外からの職場への出勤含む(外出自粛の協力要請の対象外))</p> <p>●実験施設・設備の利用について ・実験施設・設備の利用は最低限に留め、データ解析等は在宅で行う。 ・「三つの密」を避けるための運転計画、施設利用スケジュールの構築(施設内の密を避けつつ、短時間の実験を継続する等) ・研究設備や備品について、端末操作画面やスイッチ、ドアノブやトイレなど複数の人の手が触れる場所を必要に応じて消毒。また、実験等の性質も考慮しつつ、ドアを常時開放するなど、人の手が触れる場所を少なくする。 ・安全管理等の理由により、複数の人が同時に操作を行う必要がある研究施設や設備等においては、マスクの着用、フェイスシールドの着用、またはアクリル板・透明ビニールカーテン等による遮蔽等の措置。 ・単独で長時間の実験・施設利用を行う場合は、利用開始・終了の声掛けや記録、事故時の連絡手段の再確認など、万が一の事故に備えた安全対策の構築。 ・実験動物、遺伝子組換え生物(微生物、植物、動物)、病原性微生物や放射性物質を使用する研究の場合、機関管理のもと、関係法令等を踏まえ適切に実施。 ・設備の遠隔利用や研究代行等の取組を積極的に実施するとともに、機関内外の遠隔利用サービス等を積極的に利用。 ・講義のオンライン化等に併い空いている教室や実験・実習室等がある場合には、それらを積極的に活用。</p>	<p>(別紙C)</p> <p><許可判断基準> ①基本的感染対策が活動団体内で周知・徹底されているか ②活動内容・活動人数・活動場所の設定にあたり、基本的感染対策が十分に勘案され、具体的に示されているか ③担当顧問との相談の上、申請がなされているか</p> <p><基本的感染対策> 1. 次のいずれかに該当する場合は本学健康支援センターに報告するとともに、帰国者・接触者相談センターに相談、課外活動には参加しないことを課外活動団体構成員全員が共有し、実践すること。 ・息苦しさ(呼吸困難)・強いだるさ(倦怠感)・高熱等の症状がある ・上記以外で発熱や咳など比較的軽い症状が続く(特に4日以上続く場合は必ず) 2. 1人ひとりの基本的感染対策を実践すること ・身体的距離の確保(できるだけ2m(最低1m)) ・屋外活動の優先 ・可能な限り真正面を避けた会話(大きな発声を伴う活動は基本的に不可) ・課外活動時のマスク着用(活動内容による) ・帰宅時の手洗いの実施(手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗うこと(手指消毒薬の使用も可)) ・感染流行地域からの移動、感染流行地域への移動の自粛(感染地域状況の確認) ・行動履歴の記録(発症したときのため、誰にどこであったかをメモ) 3. 日常生活を営む上での基本的な生活様式を実践すること ・こまめに手洗い・手指消毒 ・咳エチケットの実践 ・こまめな換気の実践 ・「3密(密集、密接、密会)」徹底回避 ・毎朝の体温測定、健康チェック</p>
		<p>(別紙D)</p> <p><教職員、学生> ①次のいずれかに該当する場合は帰国者・接触者相談センターに相談、本学健康支援センターに報告し、出勤、出校しない。 ・息苦しさ(呼吸困難)・強いだるさ(倦怠感)高熱等の症状がある場合 ・重症化しやすい方(基礎疾患がある方や透析を受けている方、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方)で、発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状のある場合 ・上記以外で発熱や咳など比較的軽い症状が続く場合(特に4日以上続く場合は必ず) ②上記以外の発熱又は風邪の症状がある場合、同居する者に上記も含め同様の症状が見られる場合は、無理をせず自宅で療養 ③1人ひとりの基本的感染対策の実践。 ・身体的距離の確保(できるだけ2m(最低1m)空ける。) ・会話をする際は、可能な限り正面を避ける。 ・外出時、屋内、会話時はマスクの着用 ・手洗いは30秒程度かけて水と石けんによる手洗いの徹底(手指消毒薬の使用も可) ・感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域からの入構は控える。 ・地域の感染状況に注意。 ・発症したときのため、誰にどこであったかをメモ。 ④日常生活を営む上での基本的な生活様式の実践。 ・咳エチケットの実践 ・こまめな換気の実践 ・3密の回避(密集、密接、密会)の徹底 ・毎朝、体温測定、健康のチェック。</p> <p><学外者> ・レベル2の場合 教育・研究活動等の打合せ、就職相談等は原則、オンラインによる。 ・レベル1の場合 教育・研究活動等の打合せ、就職相談等は、積極的にオンラインを活用 ・なお、大学の機能の維持、教育研究活動の継続等に必要な打合せ、物品の納入、工事施工、取材等は構内入構を認める場合は、次のことを行う。(レベル1準用) ・入構前に必ず学外者が新しい生活様式等を実践し、健康状況に問題がないことを確認する。 ・入構の際にはマスクの着用を徹底する。 ・それぞれの氏名、連絡先、滞在日時、学内対応者等を教員及び部局において記録する。 ・一定時間以上学内で活動を行う以下に該当する者については、感染防止措置を強化し、体温測定、健康状態の問診を行い、症状が無いことを確認する。 ＊学内者と15分以上の会話がある場合、同一建物内に30分以上滞在する場合 ・学外者が頻繁に訪れる窓口には、透明ビニールカーテン等による感染防止設備を設置する。</p>